

長期研修プログラム

メキシコ (第40回)

メキシコ国立自治大学

佐久間 暖斗 外国語学部 スペイン語学科 2年

千葉県私立二松學舎大学附属柏高等学校出身
2023.4 拓殖大学入学
2024.8 メキシコ長期研修参加



ホームステイ先のお孫さんと

留学を終えて

【メキシコという国とその国民性】

今回の研修ではタスコとメキシコシティの二地域で生活し、日本との違いだけでなく、都市と地方の差も強く感じました。季節は朝晩と日中の寒暖差が大きく、冬でも極端に冷え込むことはなく、朝晩は上着が必要でしたが日中は半袖で過ごせるほどでした。九月から十月前半までは雨季で豪雨も多く、後半の乾季はカラッとされた快適な気候が続きました。人々はとて親切で、特にタスコではホストファミリーが何度も食事に招いてくれたり、様々な場所に連れて行ってくれたりしました。彼らの生活には心の余裕を感じました。宗教は人によって異なりますが、日本より信仰心が強い印象を受けました。タスコの家庭では食前に神に感謝の祈りを捧げ、週末に布教活動をしていました。メキシコシティでは都市化が進み宗教を意識する場面は少ないものの、家の中にグアダルーペ像があり、信仰が生活に根付いているのを感じました。食事はトウモロコシを使ったタコスが中心で、辛い味付けや濃い料理が多く、初めの頃は体が慣れずにお腹を壊しましたが、木曜に食べる伝統料理ポソレが特に気に入りました。音楽とダンスは国民全体に浸透しており、パーティーでは老若男女が自然に踊り、バスで歌う人がいても誰も気にしませんでした。日本と比べると、清潔さや食事のバランス、街の整備は日本の強みですが、英会話力や海外志向の低さは課題です。もっと外に出て世界を知ることが重要だと感じました。学校生活も充実しており、通学時間は一時間以内、先生は親切で授業も分かりやすかったです。UNAMでは壁画のある図書館や広大なキャンパスが印象的でした。タスコは山に囲まれた観光地で、銀製品が名産です。総じてメキシコの人々は温かく、文化的にも魅力にあふれ、また必ず訪れたいと強く思いました。

【メキシコでの日常】

留学中の日常生活はとても楽しく、タスコ・メキシコシティのどちらのホームステイ先でも厳しい約束事はなく、のびのびと生活できました。タスコではテレサさん一家にお世話になり、学校や中心街、スーパーが徒歩圏内にあり便利でした。三階の一室を一人で使い、ベッドやソファも備わり快適でしたが、冷蔵庫がなく上階の大家さんに借りる必要がありました。水回りは少し汚く、途中からシャワーが冷水しか出なくなったのは大変でしたが、生活には概ね満足していました。メキシコシティの家は中心地から公共交通で一時間以内の場所にあり、スーパーも近く便利でした。一部屋を与えられ、キッチンや水回りを共同で使い、Wi-Fiも整っていて不満はありませんでした。放課後は、タスコでは町が小さく行く場所も少ないため、たまにクラスメイトと昼食に行く程度で、普段は直帰して課題をし、ホストファミリーと食事や会話を楽しみました。休日は町の観光地や博物館を訪れ、家族や友人たちと食事やゲームをして過ごしました。独立記念日には友人と集まり食事をとりました。メキシコシティでは友人と昼食や買い物に出かけ、日本食店のすき家にもよく行きました。タスコと



ソチミルコ

異なり生徒数も多く、多国籍な環境で特に韓国、ベルギー、日本の友人たちと親しくなりました。ベルギー人の方からはチョコレートをいただくこともありました。休日は中心街や市場、観光地を巡り、カンクン旅行やテオティワカン遺跡、死者の日のパレード鑑賞など多くの経験をしました。お金は銀行で引き出しましたが手数料が高いため、できる限りデビットカードを使用しました。通信は現地SIMを購入して使いましたが、日本でeSIMを契約しておくのが最適だと感じました。学校以外でも常にスペイン語に触れられ、現地での生活はかけがえのない貴重な経験となりました。

【マイノリティとしての生活】

メキシコでの留学生活を通じ、私は数えきれないほどの貴重な経験と学びを得ました。特に大きな変化は、言語能力の向上、マイノリティとしての気づき、異文化理解、国民性の違いの理解、そして人としての成長です。まず言語面では、学校だけでなく日常生活の中で生きたスペイン語を学ぶことができました。授業で習う文法的な表現だけでなく、会話で使われる自然な言い回しや現地特有のスラング、名詞を小さくして親しみを表す言葉遣いなどを身につけたことで、より現地の人々と深く関わることができました。メキシコのスペイン語は世界で最も話される方言であり、今後メキシコや中南米に関係する仕事に携わる際に必ず役立つと感じています。また、スペインに留学した人々との交流を通じて、スペイン語の地域ごとの違いや表現の多様さにも関心を持つようになりました。

次に、マイノリティとしての立場を経験したことは私にとって大きな気づきでした。タスコではアジア人がほとんどおらず、じろじろ見られたり、中国人だと間違われたり、相場より高い値段を提示されそうになったこともありました。初めは不快でしたが、同時に日本で私自身も外国人を無意識に見ていたことを思い出し、自分の偏見に気づききっかけとなりました。その経験を通じて、他者を理解し受け入れる姿勢や、多様性を尊重する重要性を実感しました。また、メキシコ人は家族や宗教、伝統を大切に、仕事よりも人とのつながりを重んじる傾向があります。ホストファミリーは定時に帰宅し、家族と食事を楽しむ時間を欠かさず、その姿から心の余裕の大切さを学びました。

さらに、留学生活では計画性や自己管理能力も大きく向上しました。言語の壁がある中、一人で問題を解決する必要があり、常に考えながら行動する力が身につきました。自立して生活することで責任感が強まり、主体的に動く姿勢が形成されました。これらの経験は学校生活だけでなく、将来社会に出た際にも必ず活かせると感じています。今後は、留学報告会などに積極的に参加して、自分の体験を後輩や仲間と共有し、海外に興味を持つ人を増やしたいです。また、異なる背景を持つ人々と交流し、多様な価値観を取り入れることで広い視野を持ち、国際的な感覚を備えた人間として成長していきたいです。



人類学博物館